

平成 22 年 6 月 11 日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19720174
 研究課題名(和文) 東北地方所在の蝦夷地関係史料の調査と北海道・東北地方の交流史に関する基礎的研究
 研究課題名(英文) Investigation of historical documents related to Ezo in Tohoku region and basic study on historical exchange between Hokkaido and Tohoku region.
 研究代表者
 東 俊佑 (AZUMA SHUNSUKE)
 北海道開拓記念館学芸部・研究員
 研究者番号：30370224

研究成果の概要(和文)：

本研究は、東北地方に残存する近世蝦夷地関係の文献史料の所在状況を調査し、北海道と東北地方の交流史に関する基礎的データを集積することが目的であった。本研究により、(1)東北地方所在の蝦夷地関係史料の概略、(2)近世蝦夷地の歴史や文化に関する基礎的データの集積、(3)蝦夷地・北海道と親密な交流のあった象潟の歴史文化解明の基礎的な環境が整えられた。

研究成果の概要(英文)：

The purpose of study is to look for the historical documents related to Ezo in Tohoku region at the early modern age, and to accumulate the basic data about the historical exchange between Hokkaido and Tohoku region. This study clarified a few following matters;

- (1) Outline of the historical documents related to Ezo in Tohoku region
- (2) Accumulation of basic data about history and culture of Ezo at the early modern age
- (3) Maintenance of basic environment to clarify history and culture between Hokkaido and Tohoku region

交付決定額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 700,000 | 0 | 700,000 |
| 2008年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2009年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 2,400,000 | 510,000 | 2,910,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：蝦夷地、奥羽、北海道、史料、近世

1. 研究開始当初の背景

北海道と本州を分断する津軽海峡は、ひと・もの・情報を遮断する障壁ではなく、北

前船などの海運を通じて両者をつなぐ“しょっぱい川”であった。近世後期になると、ニシンや昆布に代表される蝦夷地産物が、食料

や肥料として本州の内陸部、さらには長崎貿易・琉球貿易の移出品として海外にまで広く運ばれていった。一方、18世紀末頃からロシアがクリル諸島(千島列島)づたいに南下すると、幕府の蝦夷地政策の一環として東北諸藩が蝦夷地警備に動員された。東北北部に位置する弘前・南部藩はもちろんのこと、秋田・仙台・会津・庄内諸藩の藩士たちも、警備のため蝦夷地へと渡った。また蝦夷地の漁業生産のため、東北地方から多数の出稼人、あるいは場所請負制下の番人が蝦夷地へ赴いている。彼らは蝦夷地のアイヌと日常的に接し、蝦夷地社会に大きな影響を与えるとともに、さまざまな情報や文化を故郷へ持ち帰ることとなった。米や酒、あるいは木綿製品などの日用品は、奥羽をはじめとして日本海側の諸港から蝦夷地へ積み出されていった。以上のように、近世の蝦夷地と奥羽は、相互に影響を与え合っていた。したがって、東北地方における蝦夷地関係史料の残存は、当然の帰結である。

このような歴史的背景があるため、1980年代頃より、それまで北海道史、青森県史、山形県史といった個々の枠組みで研究がすすめられてきた地方史(郷土史)を、地域という総体で把握しようとする動きが見られるようになった。1985年における北海道・東北史研究会の設立、そして同研究会による『北からの日本史』(三省堂、1988年)、『海峡をつなぐ日本史』(三省堂、1992年)などの書籍の刊行は、こうした研究動向を顕著に示すものであり、北海道・東北地方という広域的な北の視点から、従来の一国史的な日本史像をとらえ直すことに大きな影響を及ぼしてきた。

産物の流通や人の移動といった問題は、近世蝦夷地研究の重要課題である。従来の研究では、この課題に対して、東北地方の個別の地域と蝦夷地との関わりという狭い範囲では研究が行われている。しかし蝦夷地・奥羽全体の流通構造の把握や蝦夷地警備の比較研究といった議論はほとんど進展していない。その主な原因は、蝦夷地に視座を置いた研究者が、東北地方の蝦夷地関係史料を総合的に把握していないことが根底にある。幸いにして、近年東北地方の各自治体史が新たに刊行され、各編さん室において管内史料の所在把握がある程度進んでいる。従来、空白とされてきた問題にアプローチし、近世蝦夷地研究をより飛躍させるためにも、その基礎的作業=史料の所在調査・総合的把握が必要である。本研究により、アムール川下流域・サハリンをはじめとする北東アジアから東北地方までを含めた新しい北方史研究の素地をつくるのが、次の段階の研究をはじめの大きな一歩となるであろう。これが本研究を構想するにいたった背景である。

2. 研究の目的

本研究は、東北地方に残存する膨大な近世文書のなかから、蝦夷地に関係あるものを調査し、抽出・集積することにより、目録を作成することが目的である。

本研究においては、まず東北地方各地の図書館、文書館、博物館、資料館を歩き回り、蝦夷地研究の視座から既存の史料を「発掘」(一地方史の史料に蝦夷地の視座を加えることで、新たな価値を見出す)する。そして調査をすすめるなかで、寺院や神社・個人蔵など、未調査史料の所在が判明すれば、適宜収集と整理を行っていく。あくまでも目録の作成に主眼を置くので、史料の内容を分析するのは、本研究の次の段階の課題としたい。蝦夷地関係史料の所在と性格を明らかにすることにより、北海道・東北地方の交流の様相を導き出すことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 事前調査

本研究の第一の目的は、東北地方における蝦夷地関係史料の所在状況調査である。所在状況の把握には、各地の資料保存機関における現地調査が不可欠である。しかし、東北地方といっても、資料保存機関の数は膨大であり、全機関について調査を行うことは、事実上不可能である。そこで、調査対象機関は、原則として県立の文書館・図書館・博物館・資料館等とし、それ以外の主要な市町村については、適宜調査対象を追加することとした。調査対象を選定するにあたって、その準備作業として、札幌市内の文書館・図書館において、関係文献・目録の調査を行った。

まず、東北地方所在の蝦夷地関係史料についての定期的な概報を掲載する『北海道史研究協議会会報』を調査し、東北六県の史料保存機関の抽出を行った。次に、『国書総目録』や地方史研究協議会編『歴史資料保存機関総覧[増補改訂版]』のなかから、資料保存機関の抽出を行った。また、北海道内の自治体史を悉皆調査し、東北地方所在の資料がないかどうかを確認した。

そのうえで、抽出された調査対象機関について、インターネットやOPACを通じて、史料目録の有無について事前把握を行った。

(2) 東北地方各地の史料保存機関(図書館・文書館・博物館・資料館等)の調査による蝦夷地関係史料の所在状況の把握

東北地方各地の史料保存機関において、現地調査を行った。調査の内容は、文書目録、郷土関係図書・雑誌、自治体史、図録等のなかからの蝦夷地関係史料の抽出である。具体的には、以下のとおり行った。

岩手県盛岡市（平成 19 年度）

盛岡市中央公民館、岩手県立図書館所蔵の古文書、自治体史、関係図書・雑誌の調査を行った。具体的には(ア)盛岡市中央公民館所蔵の南部家（盛岡藩主）伝来の蝦夷地警備関係史料（主にエトロフ、クナシリ）、「東蝦夷地図巻」、北蝦夷地ロシア人石炭探掘の巻物、同館所蔵の資料目録の調査。(イ)岩手県立図書館所蔵の新渡戸文庫の調査。(ウ)岩手県立図書館所蔵の自治体史、郷土関係雑誌における南部藩蝦夷地警備関係の記事の調査とコピーの収集。これは、南部藩・仙台藩境地域における蝦夷地警備関係史料の所在を明らかにする資料である。

青森県青森市、下北半島（平成 19 年度）

青森県立図書館、青森県立郷土館、青森県史編さん室、野辺地町立郷土資料館、佐井村教育委員会所蔵の史料調査を行った。具体的には(ア)青森県立郷土館所蔵の山田家文書、横山家文書の調査、(イ)青森県史編さん室所蔵の佐賀家文書マイクロフィルムの調査、(ウ)野辺地町立郷土資料館所蔵の文書目録、最上徳内関係書状の調査、(エ)佐井村教育委員会所蔵の金丸家文書の調査。

宮城県仙台市（平成 19 年度）

東北歴史博物館、東北学院大学東北文化研究所、宮城県図書館所蔵の古文書、自治体史、関係図書・雑誌の調査を行った。

岩手県（平成 20 年度）

岩手県立博物館、宮古市教育委員会、遠野市立図書館、奥州市水沢図書館所蔵の古文書、自治体史、関係図書・雑誌の調査を行った。具体的には(ア)岩手県立博物館所蔵の南部藩蝦夷地関係史料の調査。(イ)宮古市教育委員会所蔵の金沢家文書に含まれる蝦夷地関係史料（コピー複写本）の調査。(ウ)奥州市水沢図書館所蔵の留守家文書、阿部家文書の調査。これは、南部藩・仙台藩の蝦夷地警備に関する史料である。

青森県・岩手県・秋田県（平成 20 年度）

十和田市新渡戸記念館、八戸市立図書館、二戸市立二戸歴史民俗資料館、大館市立中央図書館所蔵の史料調査を行った。具体的には(ア)十和田市新渡戸記念館所蔵の蝦夷地関係資料の調査。(イ)八戸市立図書館所蔵の八戸藩南部家資料の調査。(ウ)大館市立中央図書館所蔵の真崎文庫の調査。

新潟県（平成 20 年度）

出雲崎町教育委員会、新潟県立文書館において調査を行った。具体的には(ア)幕末期に北蝦夷地へ進出した鳥井権之助の子孫の家

に伝わる鳥井儀資家文書について、目録および史料本文の複製史料を複写。(イ)佐藤広右衛門の子孫の家に伝わる佐藤憲也家文書、その佐藤と物資の取引関係のあった三浦仙之助の子孫の家に伝わる三浦駒男家文書の調査。

山形県・秋田県（平成 20 年度）

酒田市立図書館、鶴岡市立図書館郷土資料室、にかほ市象潟郷土資料館、秋田県公文書館において調査を行った。具体的には、(ア)酒田市立図書館光丘文庫、鶴岡市立図書館所蔵の資料目録の調査。(イ)にかほ市象潟町在住の個人所蔵の文書の資料整理・目録作成・写真撮影。(ウ)秋田県公文書館所蔵の資料目録の調査。

岩手県（平成 21 年度）

大船渡市立博物館において、所蔵資料の調査を行った。とくに、江戸時代において南三陸地域の俵物集荷商人を務めた綾里の千田家文書のなかの蝦夷地関係資料について調査を行った。

山形県・福島県（平成 21 年度）

山形大学附属博物館、山形県立図書館、福島県立図書館、福島県歴史資料センターにおいて調査を行った。具体的には(ア)山形大学附属博物館所蔵の皆川新作文書の調査、(イ)山形県立図書館における郷土関係図書・雑誌、自治体史の調査、(ウ)福島県立図書館における郷土関係図書・雑誌、自治体史の調査、(エ)福島県歴史資料センターにおける所蔵資料目録の調査。

以上の調査の概要を「東北地方所在の蝦夷地関係史料(概報)」(『北海道開拓記念館調査報告』第 49 号、2010 年、pp.87-98)として公表した。

(3) 須田正美家文書の調査・整理と目録の作成

蝦夷地関係史料の調査をすすめるなかで、秋田県南部の海岸地域、とくに象潟地区（にかほ市）に史料が多く残存していることがわかってきた。そこで、象潟と蝦夷地との交流史を明らかにするための基礎作業として、須田正美家文書の調査、整理、および目録化を行った。

須田正美家文書は、蝦夷地・北海道関係文書やアイヌ民具等を含む資料群である。文書資料以外の生活資料(物質文化資料)は、アイヌ文様のある樹皮衣、木綿衣、裂織、刀(アイヌ文様の装飾のある鞘)、盆、椀、ギヤマン銚子・皿・徳利、印鑑、銭杵、はかり、算盤、印籠、鳥の羽(扇子か)、「仙台中」と墨書のある木札、めがね、ござなどである。

このような蝦夷地関係資料を含む物質文化資料が、古文書資料とともに、一つの家にセットで残っていること自体、きわめて特異であり、この点は須田家資料の最大の特徴と言える。

古文書の整理作業にあたっては、計6回ほど機会を設けた。未整理状態の書簡・証書類、北海道関係文書、書籍・図書類等に関して、分類、中性紙封筒入れを行うとともに、資料名、年代、差出人・宛先等の基本情報を把握し、目録の形で整理を行った。史料整理、目録作成に際しては、三浦泰之氏・田村将人氏（北海道開拓記念館）、松本あづさ氏（藤女子大学）に象潟調査への協力をお願いし、金道博氏・齋藤一樹氏・土田秀喜氏（にかほ市象潟郷土資料館）、石船清隆氏（白瀬南極探検隊記念館）に現地協力をいただいた。

以上の調査の成果としての目録を「須田正美家文書目録」（『北海道開拓記念館調査報告』第49号、2010年、pp.15-74）として公表した。

4. 研究成果

本研究は、近世において蝦夷地(北海道)と深い関わりのあった奥羽(東北地方)に残存する蝦夷地関係の文献史料(主に古文書)の所在状況を調査し、北海道と東北地方の交流史に関する基礎的データを集積することが目的であった。本研究により次の(1)～(3)の成果を得ることができた。

- (1) 東北地方各地の自治体史、図書、雑誌、史料保存機関(図書館・文書館・博物館・資料館等)の所蔵目録等の調査により、東北地方所在の蝦夷地関係史料の概略が明らかになった。
- (2) 東北地方各地の史料保存機関における蝦夷地関係の史料調査(複写・写真撮影等)により、東北諸藩の蝦夷地警備、蝦夷地海産物の流通、近世アイヌ社会等に関する基礎的データを集積することができた。
- (3) 秋田県にかほ市象潟の須田正美家文書の整理と目録の刊行により、東北地方のなかで蝦夷地・北海道とかなり親密な交流のあった象潟の歴史文化解明の基礎的な環境が整えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

東俊佑「東北地方所在の蝦夷地関係史料(概報)」『北海道開拓記念館調査報告』第49号、2010年、pp.87-98、査読無

東俊佑・石船清隆・金道博・齋藤一樹・田村将人・土田秀喜・松本あづさ・三浦泰之「須田正美家文書目録」『北海道開拓記念館調査報告』第49号、2010年、pp.15-74、査読無

東俊佑「北蝦夷地における直捌の展開と越後差配人の漁場開設」『北海道開拓記念館研究紀要』第37号、2009年、pp.165-200、査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

東俊佑 (AZUMA SHUNSUKE)

北海道開拓記念館・学芸部・研究員

研究者番号：30370224